

## 平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。  
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。  
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。  
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

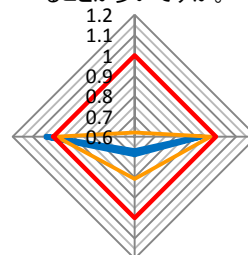
#### ① 学力調査結果と分析

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均との比較
国語A	・各分野でやや全国平均を下回っている問題や無解答率がやや高いため、全体的に全国平均正答率を下回る結果となっている。 ・言語についての知識・理解・技能に関する問題に課題があり、基礎学力の向上が必要である。	下回っている
国語B	・各分野で全国平均を下回っている問や無解答率が高い問があるため、全体的に全国平均正答率を下回る結果となっている。 ・自分の考えを表現する習慣化が必要である。	下回っている
数学A	・全国平均正答率を下回っている。文字式に関する問いの正答率が低い。 ・図形に関する問いについては無解答率は低いが高正答率が低く図形に関する理解が低いと考えられる。図形に関する基礎的な性質の理解を促す必要がある。	下回っている
数学B	・全国平均正答率を下回っている。図形の合同や証明に関する問いが全般的に低い。また発展的に考えたり新たな性質を見いだす問いに関する無解答率が高く、正答率が低い。 ・数学的な知識や性質をもとにした応用力の向上を促す必要がある。	下回っている
理科	・全国平均正答率を下回っている。分野別でみると、化学や物理に関する問いより地学や生物に関する問いの正答率が低い。また、活用に関する問いについての無解答率が高い。	下回っている

#### ② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・「総合的な学習の時間」では自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表する活動が全国と比較すると低い。生徒の興味や地域の実態に即したテーマを題材にするなど、生徒が主体的に取り組むことができる内容を取り入れた課題解決学習への転換が必要である。  
・生徒の間に話し合う活動が全国と比較すると低い。題材を工夫しグループ学習などをとり入れることで話し合う機会を増やす授業づくりが必要である。  
・授業で自分の意見を発表する機会が、全国と比較してやや低い。今後も授業を工夫し、発表する機会を増やす授業を行っていく必要がある。  
・授業中わからないことがあれば、そのままにせず積極的に質問する生徒の割合が増えている。全国と比較しても高い水準である。授業改善などの取り組みにより生徒の学習意欲の向上がうかがえる。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていると思いますか。授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。



— 本校  
— 本市  
— 全国

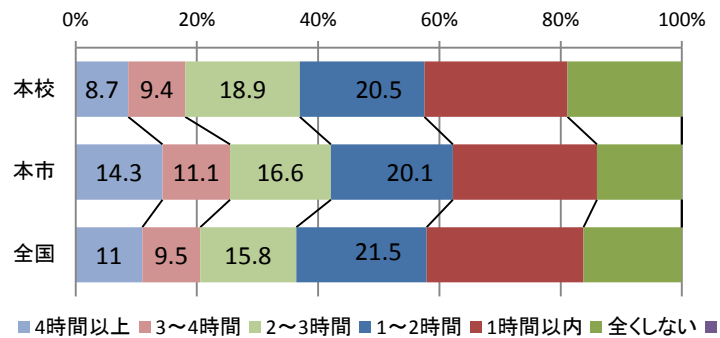
## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

・家で自分で計画をたてて勉強を進めている生徒の割合が全国と比較すると低い。そのため、学校の授業時間以外での家庭での学習時間が少ないのではないかと考えられる。生徒に普段の生活のリズムを見直す機会を与えたり「家庭学習チャレンジブック」を活用するなどして計画的に学習を進めるような支援を行っていく必要がある。

・学校の授業時間以外に、普段からの読書時間が全国と比較するとやや低いが、全体的には改善されている。学校図書館の整備や図書司書やブックヘルパーの活用などにより向上していると考えられる。



### ② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・毎日同じ時間に寝ますなど、生活習慣については項目では全国と同等かまたは良い傾向がみられるので、基本的な生活習慣の乱れは少ないと考えられる。

・現在、全国的に様々なトラブルの発生や生徒が事件にまきこまれる原因となっている携帯電話やスマートフォンなどの利用について、普段(月曜日から金曜日)利用する時間(2時間以下)は全国と比較して低い。しかし4時間以上の利用をする生徒もおり今後も継続して携帯電話やスマートフォン利用についてメリットとデメリットなどを指導していく必要がある。

## 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組

○国語の表現力を基礎とした各教科における「活用」する力や、「言語活動」の充実が課題と言える。今後は、各教科において言語活動が充実できるように授業改善に取り組み、学習意欲向上や基礎学力定着のための家庭学習の充実にさらなる取り組みが必要である。

・各教科で、自分の意見や考えを表現するような時間を確保する。自分の考えを述べたり、話し合い活動をおこなうことで、生徒それぞれの考えを互いに共有し共通点や相違点に気付かせ、思考力・判断力・表現力等の育成をおこす。

・各教科において、授業や単元の「めあて」を明確に伝えることで、生徒がより主体的に授業に取り組めるように配慮している。また授業や単元の「まとめ」をおこなうことで「わかった」「できた」という達成感を得られる授業となるよう努めている。

・言語活動の充実をはかるために読解力を育成する必要があると考え、今年度より「書写ノート」を毎週朝1回朝読書の時間に行っている。良文を書き写すことで読解力と言語表現力の向上を目指している。

・家庭学習を充実させるために、各教科のノートとは別に「自主学習ノート」の取り組みをおこなう。このノートを用いて、その日の授業を振り返り、自ら課題を設定し取り組むことで学習意欲の向上を図り基礎学力定着を目指す。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○毎日同じ時刻に寝たり起きたりする生徒の割合が多く、基本的な生活習慣の乱れは全国と比較しても少ないと考えられる。またメディアとの接触時間が低く、読書量についても改善している。しかし自分で計画を立てながら家庭学習を進めることのできる生徒の割合は全国と比較すると低いことがわかった。それを改善するために計画の立て方を工夫したり、自分の将来について具体的に考えることができるような進路指導に取り組み、ゴールをめざして日々の学習を積み重ねていく経験を持たせることが大切である。

・「家庭学習チャレンジブック」を活用して、生徒、自ら課題を設定し取り組めるように、学習計画を立てたり、学習の経過を残せるように支援する。そして「わかった」「できた」という達成感を味わわせ日々の積み重ねによる「これだけ頑張ったのだから」という自信を持たせる。また保護者に対して学校通信、ホームページや保護者会などで「家庭学習チャレンジブック」の活用についての啓発を行う。

・家庭学習にしっかり取り組んでいる「自主学習ノート」について、通信で紹介したり、文化祭で展示し紹介する。

・小中連携による授業や生活態度で共通のルール作りを行っている。小学校からスムーズに中学校生活に適應させることで学習に集中して取り組めるように努めている。